



# 町田通信

夏のご挨拶

「いつも皆さまのおそばに」

for Executives



新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまおよび関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

皆さまにおかれては感染症対策に余念がないことと思います。しかし、外出自粛やテレワークで日々の生活リズムが変わるなどして体調を崩されたりしていませんか。

今となっては懐かしい「巣ごもり消費」の文字を、ここにきて再び紙面などで目にするようになりましたが、「巣ごもり」の実態はかつて金融危機後の景気低迷で経験したそれとは大分様相が異なります。

「通勤や外出が減り運動不足」「在宅勤務で仕事と家庭生活の境目が無い」といった声や「在宅だと仕事に集中できる」「この難局を乗り越えたい」などの気持ちから「働き過ぎ」や「不規則な生活」「昼夜逆転生活」になったとの声も耳にします。

準備に十分な時間が与えられないまま始まった在宅勤務をはじめとする慣れない生活スタイルに、このように戸惑い、負担を訴える声は少なくありません。ワークライフバランスはそんな今こそ大切だといえそうです。

## 「ニューノーマル」

テレワークやオンライン飲み会、オンライン診療やオンライン学習など、にわかにはじまったこうした取り組みですが、既にそれを使いこなし、そこに新たな可能性を見いだそうとする方たちも少なくありません。

一般的に人は、変化によって得られるリターンより、それによって失うことの方を過大評価する傾向（現状維持バイアス）があるため、通常、人は変化に対して強い抵抗を示します。そのため大きな変化というのはなかなか起こりにくいものなのですが、今回は感染症が個人にも法人にも広くそれを乗り越えさせてしまいました。

そのため、これが契機となって従来のやり方や考え方

が大きく変わり、ニューノーマル（新常態）が生まれるとの見通しが各方面から発信されているのです。

「在宅勤務の一般化」「大きなオフィス不要論」「人や各種機能の地方分散」「パラレルワーク（含、非営利活動）」「ドローン配送」などなど、既にあったものが一気に加速したり、新たに始まったりするものもあるでしょう。

こうした変化を自分や自社のものとしてチャンスを広げようと取り組む方たちが数多くいらっしゃるようです。

## 「お気をつけください」

このように収束後の巻き返しに備えたり、ニューノーマルへの対応を急いだりと、何かと気持ちははやりますが、くれぐれも働き過ぎで睡眠不足になったり、ストレスをため込んだりすることのないよう、お体はお勞わりください。

もうひとつ心にお留め置きいただきたいのが「複合災害」です。自然はこうした私たちの事情など察することができません。ましてやタイミング悪く、ご自身の体調不良まで重なってトリプルパンチということにならないよう、健康には日ごろから十二分にご留意いただければと存じます。

また先日、日本経済新聞（2020年5月2日、夕刊）に『『必要な外出』自転車での見出しが「混雑避けたい」「体動かしたい」の文字とともに躍りましたが、「令和元年中の交通事故の発生状況」（2020年2月18日、警視庁）によると、交通事故全体に占める自転車交通事故の件数比率は近年概ね2割を占めています。重大事故もしばしば報じられています。ご利用の際はどうぞお気をつけください。

重ねて皆さまのご健康を心からお祈り申し上げますとともに、一日も早い事態の収束を祈念いたします。

すこしでも私がお役に立ちそうなことがありましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

ソニー生命保険株式会社 新宿ライフプランナーセンター第4支社

エグゼクティブ ライフプランナー 町田 信行

住所変更などはありませんか。近況の変化やご要望、ご質問などございましたら私（裏面）までご連絡ください。  
また、私がお役に立ちそうな方がいらっしゃいましたらぜひご紹介いただけますようよろしくお願いいたします。

## マナーやエチケットの目的

感染症の影響でマスクの着用が当たり前になりました。ビジネスなど人前でのマスク着用は本来マナー違反とされますので、見た目は反対ですね。

マナーやエチケットのそもそもの意味は、それぞれ「社会的に望ましいとされる行動や作法」と「相手を不快にさせない気配り」です。もちろん目的もここにあります。

マナーの多くはそれが生まれた時代の文化や風俗、価値観などの影響を受けるため、目的や意味は同じでも見た目には全く異なるマナーが存在します。

たとえば挨拶を例にとると、欧米では相手の目を見て握手をします。これは元来相手に敵意がないことや武器を持ってないことを示す意味があったそうです。

一方、日本人の挨拶といえばお辞儀ですが、お辞儀は急所である頭を差し出して相手に敵意がない、無抵抗であることを示す形だったそうです。意味は同じでも、日本と欧米では、そのやり方となると全く違うのです。

この様な例をほかにもご存知かもしれませんが、マナーにはこうしたこと(方言のようなもの)が少なくありません。「マナーはマナー講師の数だけある」などとも言われますが、その理由はこの辺にありそうです。

ですから、今日のマスクのような特に大切なことや、多くの人の間で広く共有されていること以外は、あまり形にこだわらず、周囲に合わせるのが無難なようです。周りや相手に合わせて対処するのは、マナーやエチケットの本来の目的にも合致します。

さて、お話の後半ではよく知られる食事の時のマナーについて、その起源をご紹介します。としたいと思います。

### 「両手はどこに置く？」

席についたら、食事中も食べていない時も、手首から先は常にテーブルの上に置きます。これは中世ヨーロッパ時代、テーブルの下で武器を手にして相手を攻撃しないことを示すためだったようです。

### 「乾杯」

乾杯でグラスをぶつけあうようになったのも中世ヨーロッパの時代からといわれます。グラスを勢いよくぶつけ合うことでお互いのお酒を混ぜ合わせ、毒が混入していないことを証明したという説です。

### 「ワインのテイスティング」

ワインを注文するとホスト役の人がテイスティングを求められます。これもまた中世時代、ホストが試飲して中に毒が入っていないことを証明してからゲストに振舞ったことが起源だといわれます。大皿に盛られた料理をホストがゲストに取り分けるのも同じ理由からだそうです。

今日、武器や毒を本気で心配する人はいませんが、何れも相手に対する配慮を示す方法としてはしまったものであることがわかりますね。しかし、もしかしたらこうした定番のマナーも今般の感染症をきっかけに、なかには新しい形に変わることだってあるかもしれません。

当面は、自らを守り、相手に安心してもらうためのマスク着用を心がけつつ、マスクなしで安心して過ごせる日々がまた戻ってくることを心待ちにしたいと思います。

## こんな時にご連絡ください

適切なサービスや情報をご提供し、皆さまをお守りするために、次のようなときは私にご連絡ください。

●各種手続きや保障内容の見直しなどの相談や問い合わせ

- 保険金・給付金の請求手続き
- 契約者貸付
- 新型コロナウイルス感染症に関する特別取扱  
(記載された取扱内容は、2020年5月12日現在の情報となります。)
- 災害や事故などに遭遇(または心配)
- 結婚／出産／転居／昇進／転勤など(含予定)

- 年金／相続／介護について相談したい
- 保障内容を確認／見直したい
- 紹介して欲しい人／提供して欲しい情報がある
- 紹介したい人がいる
- 事業拡大や事業承継のご計画(法人様)
- 福利厚生制度／役員の保障のご相談(法人様)

●その他

疑問やご不安に感じていらっしゃることはございませんか。近況なども気軽にお聞かせいただければ幸いです。

(差出人・連絡先)

ソニー生命保険株式会社

新宿ライフプランナーセンター第4支社

エグゼクティブ ライフプランナー

町田 信行

掲載内容等に関するお問い合わせは私まで。

〒151-0053

渋谷区代々木 2-1-5

JR 南新宿ビル 18F

TEL: 03-5358-1704 FAX: 03-5358-1724

携帯: 090-3681-3416

メール: NOBUYUKI\_MACHIDA@sonylife.co.jp

http://2way.ne.jp/SL/MachidaNobuyuki/